

日本遺産「佐世保鎮守府」開庁・佐世保港開港 130 年記念事業 基本方針（案）

明治 16 年（1883）、海軍少佐・肝付兼行の一行が同じ少佐・東郷平八郎が艦長を務める軍艦「第二丁卯（だいにていぼう）」で佐世保港に来航、測量等調査を行いました。この結果をもとに明治 19 年（1886）、第三海軍区として佐世保に鎮守府が置かれることが決定します。

その後、鎮守府庁舎や倉庫など軍港に必要な施設の整備や、市街地の都市整備、人員配置が進み、明治 22 年（1889）7 月 1 日、佐世保鎮守府が開庁。軍港としての佐世保港がこの日、開港したことになります。

来年 2019 年は、この佐世保鎮守府開庁・佐世保港開港から 130 年の記念すべき年となります。

佐世保発展の基礎となった、佐世保鎮守府開庁・佐世保港開港を記念し「日本遺産佐世保鎮守府開庁・佐世保港開港 130 年記念事業」を次のとおり実施します。

1. 目的

- ①本市発展の礎となった佐世保港開港から 130 年を迎えることを記念し、港を市民にとって身近な存在とし、佐世保港のさらなる発展を目指します。
- ②明治期の日本近代化を牽引した日本遺産「佐世保鎮守府」を次世代に伝え、遺します。
- ③日本遺産「佐世保鎮守府」開庁 130 年という節目の年を佐世保市の観光 P R に活用し、観光客誘致を図ります。
- ④市民に加え多様な主体が当事業に取り組むことで、佐世保市と佐世保港のさらなる発展、飛躍を目指します。

2. 体制

佐世保市が中心的役割を担いながら、

佐世保鎮守府の後継機関である海上自衛隊佐世保地方総監部

佐世保海軍工廠に由来する佐世保重工業(株)

日本遺産「佐世保鎮守府」の構成資産を活用している松浦鉄道、西九州倉庫、米海軍佐世保基地

本市のまちづくりを牽引する佐世保商工会議所

「海風の国」佐世保・小値賀の日本版DMOである佐世保観光コンベンション協会 等

と官民が連携し、それぞれが主体となって実施する、佐世保市一体の効果的な取り組みを目指したいと考えています。

3. その他

250 トン起重機や、赤レンガ倉庫群など、現役で稼働している日本遺産「佐世保鎮守府」構成資産の数々は、私たちの暮らしにあまりにも身近でその価値に気付きにくい存在です。佐世保鎮守府 130 年を機にライトアップを行うことで、正に光を当て、その存在価値について認識する機会とするとともに、佐世保の夜の魅力として広く市内外に情報発信し、新たな観光素材として確立・活用できることを期待します。